

第1回やすらぎ堤デザイン検討委員会資料

平成27年2月5日(木)

検討事項に関する方向性について

(目次)

- 1) 未整備区間のデザイン検討 ----- 1
- 2) 整備済み区間の改良デザイン検討 ----- 13
- 3) 設備等の整備に係る基本方針の検討 ----- 17

1) 未整備区間のデザインの検討

① 新光町上流区間 (L=900m)

- 最上流部に自然のヨシ群落が形成されている。
- 区間を通して川底は浅い。
- 他区間に比べて背後の地盤が高いので、築堤をしても堤内地から水面が見える。
- 沿川は、現在、結婚式場、駐車場として利用されている。
- 近接した上流側堤内地に水辺であそべる公園がある。
- H12年「やすらぎ堤を考える会」では、最上流部が「現況自然植生の保全を考えるゾーン」残る区間が「水辺の自然化と親水利用の中間的なゾーン」に位置付けられている。



1) 未整備区間のデザインの検討

① 新光町上流区間 (L=900m)



船着場より上流(結婚式場前)



水際付近



既存植生

1) 未整備区間のデザインの検討

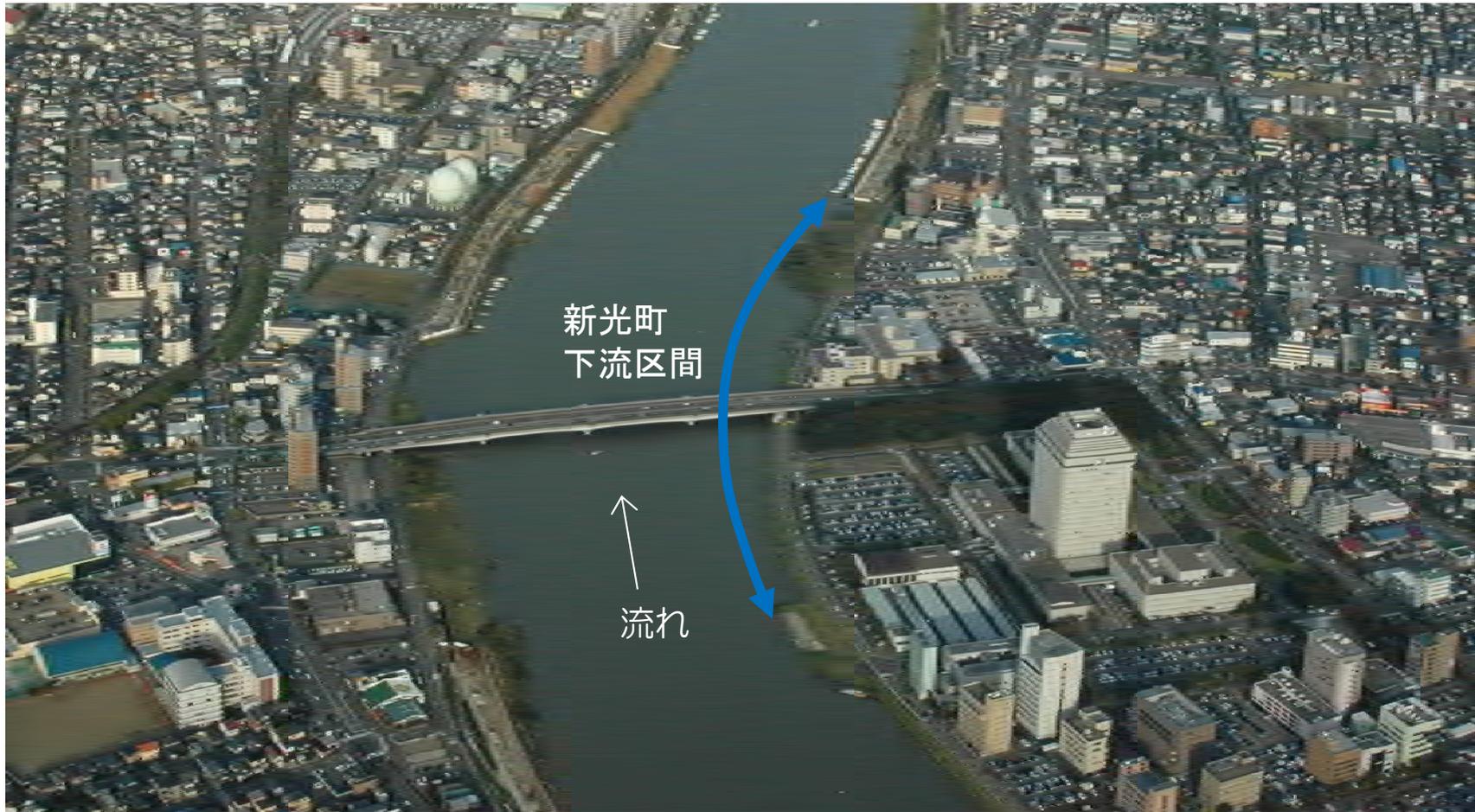
② 新光町下流区間 (L=700m)

- 千歳大橋を挟む右岸区間で、橋直下流区間では築堤工事を実施中。
- 最下流部には、自然のヨシ群落等が形成。
- 区間を通して川底は深い。
- 背後地は、上流側に新潟県庁舎、下流側に新潟中央病院、TeNY社屋等が立地。
- 他区間に比べて背後の地盤が高いので、築堤をしても堤内地から水面が見える。
- H12年「やすらぎ堤を考える会」では、最下流部が「現況自然植生の保全を考えるゾーン」、残る区間が「親水利用の促進を考えるゾーン」に位置付けられている。



1) 未整備区間のデザインの検討

② 新光町下流区間 (L=700m)



千歳大橋下



県庁前の船着場とオープンスペース



下流の既存植生

懇談会等の検討経緯と水辺空間整備方針（ゾーニング）

平成12年度 やすらぎ堤を考える会

平成12年度に開催された「やすらぎ堤を考える会」において、新光町地区の整備計画が検討され、現況の下流端と上流端ヨシ群落を存置する形状として提案されている。

ゾーン名	整備方向
A	<ul style="list-style-type: none"> ● 堤防を引いて自然(ヨシ原)を極力残します。 ● 上流とのすりつけ部について <ul style="list-style-type: none"> ・なるべく徐々にすりつける。 ・病院前は、利用を考えなるべく広めに取ります。
B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県庁前は人の集まる地区なので従来通りの幅広いやすらぎ堤を整備します。 ※ここには災害時資材の運搬等を考慮した船着場を整備します。(既決事項)
C	<ul style="list-style-type: none"> ○ Bゾーン(利用)とDゾーン(自然保全)の緩衝帯的整備とします(例えば散策しながら自然観察)。 ○ ところどころワンドもしくは湿地のような、自然が自生してくるような仕掛けを作っておく。
D	<ul style="list-style-type: none"> ○ Aゾーンと同様に堤防を引いて自然(ヨシ原)を極力残します。

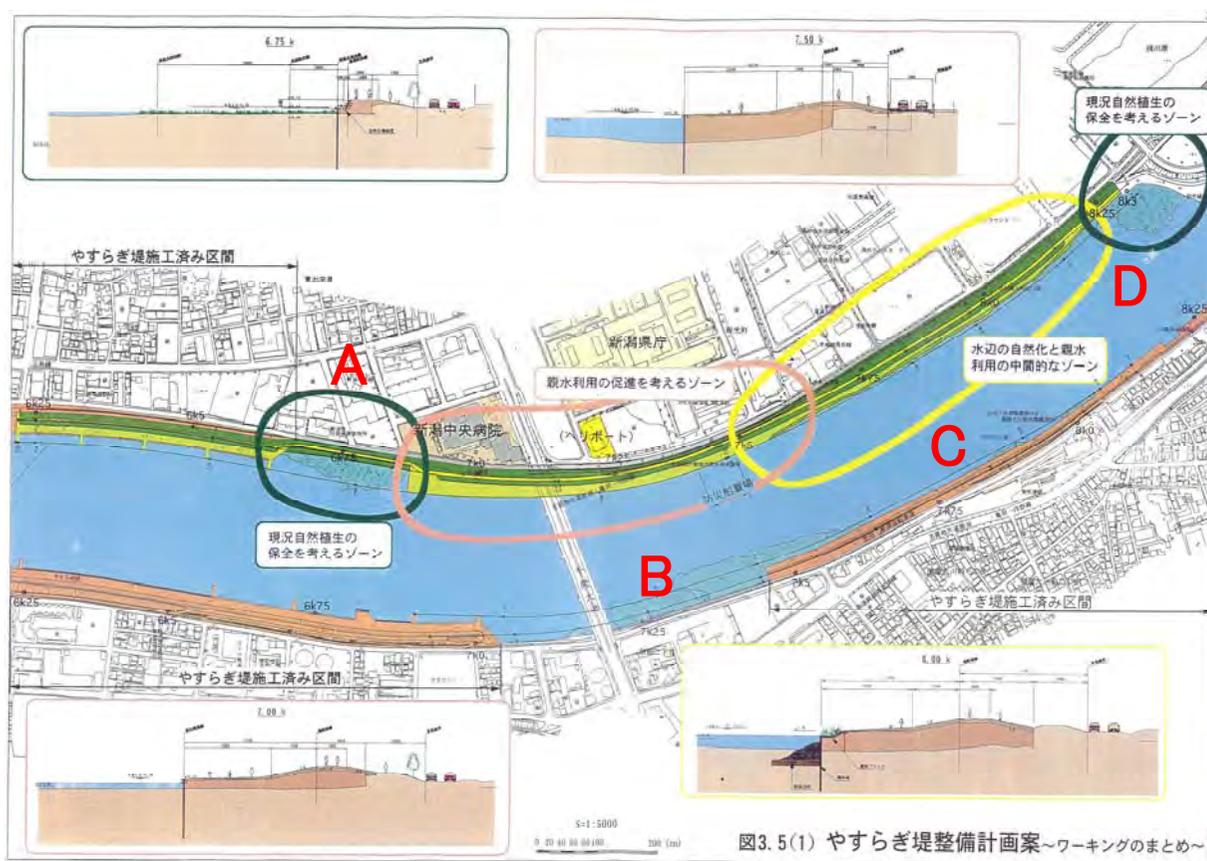


図3.5(1) やすらぎ堤整備計画案～ワーキングのまとめ～

●: 今回(H12)の検討で整備方針が決まり、具体の検討を行う事項

○: 今回(H12)の検討で整備方針が決まった事項

1) 未整備区間のデザインの検討

③ 関新地区（上流部左岸）

- 千歳大橋を挟む左岸区間で、左岸側唯一の未整備区間。
- 上流側には、自然のヨシ群落が形成。
- 背後地は、近隣に白山駅、BSN社屋があり、マンションが立地。
- 近接下流区間は、JR橋まで暫定係留施設が整備。
- 当該地点には、地中にタールピッチ(酸性の高い油)及び重金属油が存在する箇所があり、整備に当たっては対策が必要。



1) 未整備区間のデザインの検討

③ 関新地区（上流部左岸）



未整備区間（関新地区）



1:5の緩傾斜法面と
係留施設



係留施設



BSN新潟放送



白山駅からつながる道路

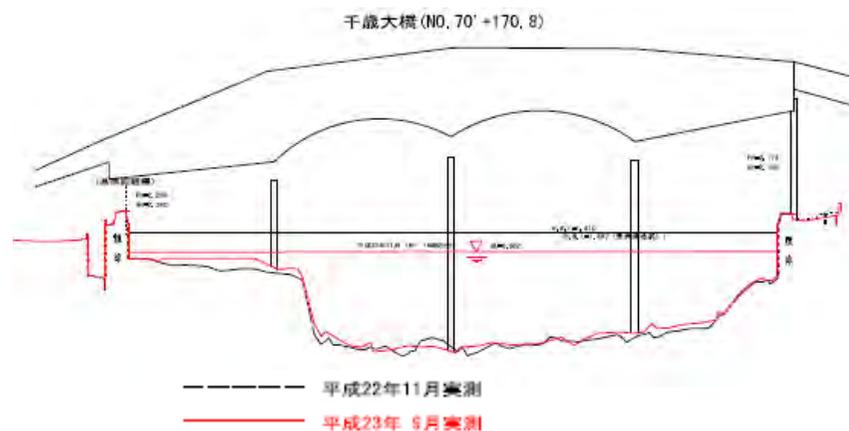
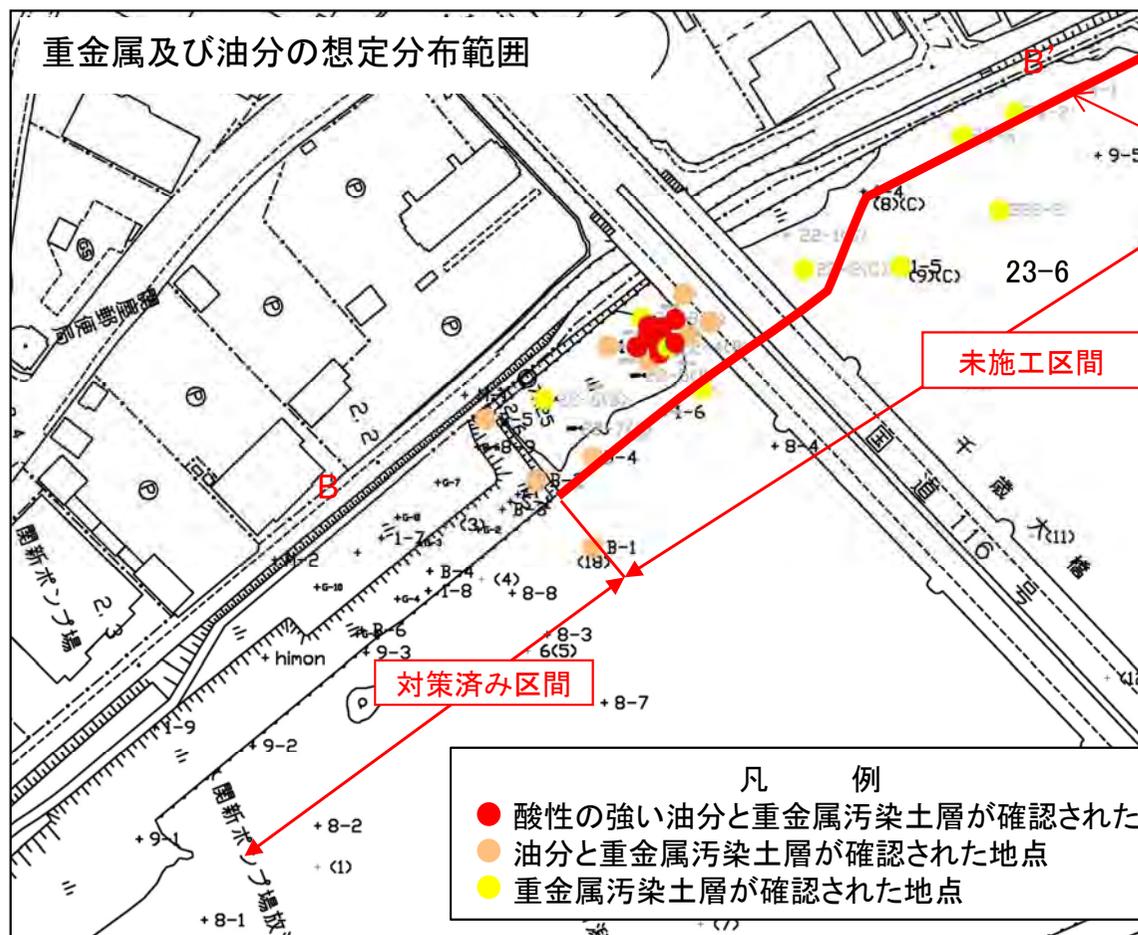
1) 未整備区間のデザインの検討

③ 関新地区（上流部左岸）整備方針（1）汚染土壌対策

- 関新地区では、ボーリング調査で油分及び重金属汚染が確認されており、築堤工事に当たっては、油分等が流れ出さないようにする必要がある。

（現状では、汚染物質の流出や環境汚染は無いが、築堤や護岸で影響が予想される区域は対策を講じる。）

（油分が築堤荷重で押し出されないよう、鋼矢板で遮断し封じ込める。）



（河床は、安定（やや堆積傾向）している。）

1) 未整備区間のデザインの検討

③ 関新地区（上流部左岸）整備方針（2）ヨシ群落等の代替地整備

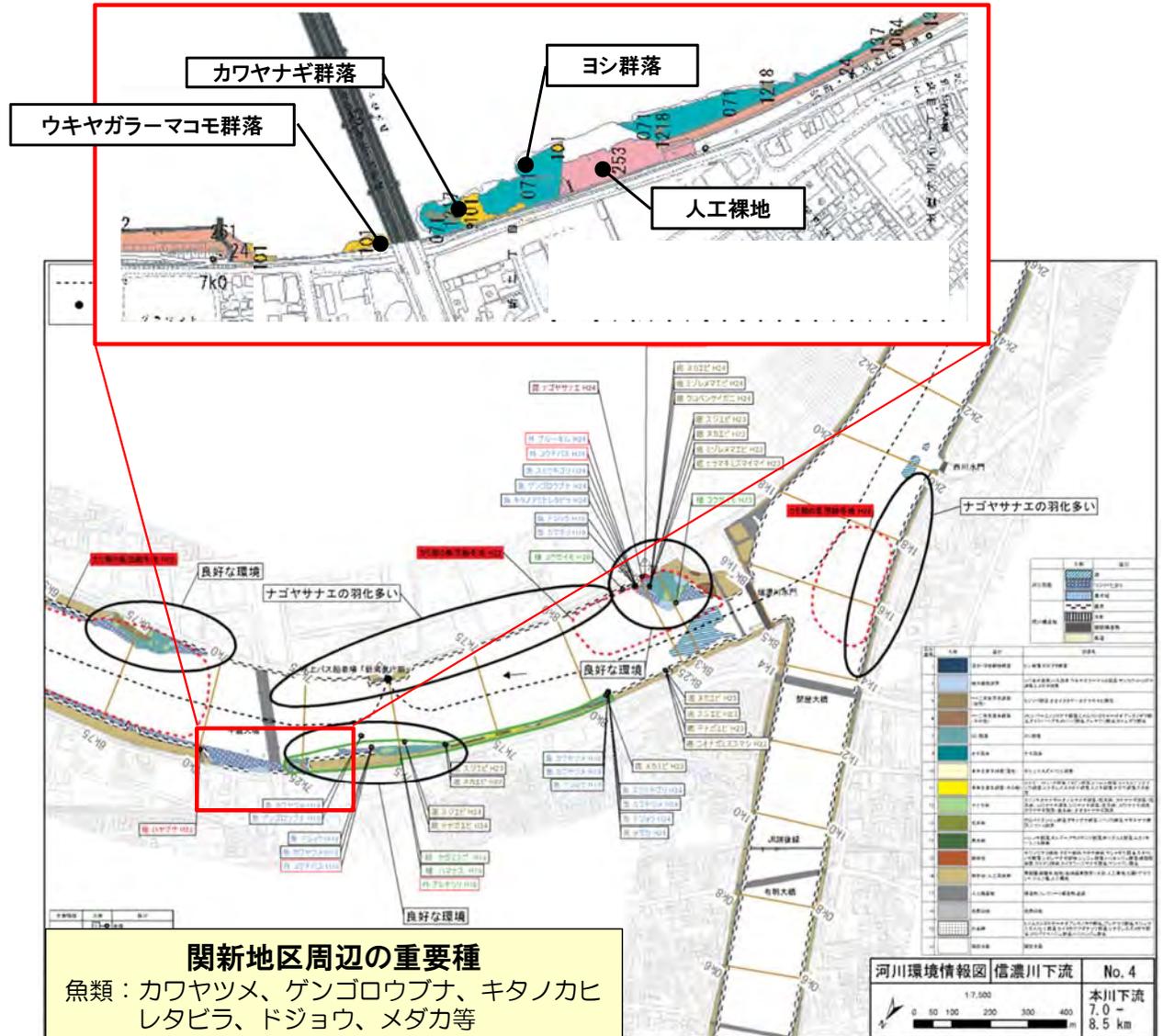
『関新地区周辺の環境』

- やすらぎ堤区間で、ヨシ等の水際植物がまとまって分布する区間
- ドジョウ、ナゴヤサナエ等の重要種が生息
- 上流側には比較的横断幅の広いヨシ群落、ウキヤガラマコモ群落
- 下流側はたまり状の緩流水域



【改修の際の保全方針】

築堤と油分対策を行うために、ヨシ群落のほぼ全体が消失することから、下流側に代替地を整備して保全。



関新地区周辺の重要種
 魚類：カワヤツメ、ゲンゴロウブナ、キタノカビレタビラ、ドジョウ、メダカ等
 底生動物(昆虫含む)：ヌカエビ、ナゴヤサナエ等
 鳥類：ハヤブサ、カモ類の集団越冬地
 植物：ハマナス、コウガイモ、ヤガミスゲ

1) 未整備区間のデザインの検討

③ 関新地区（上流部左岸）整備イメージ

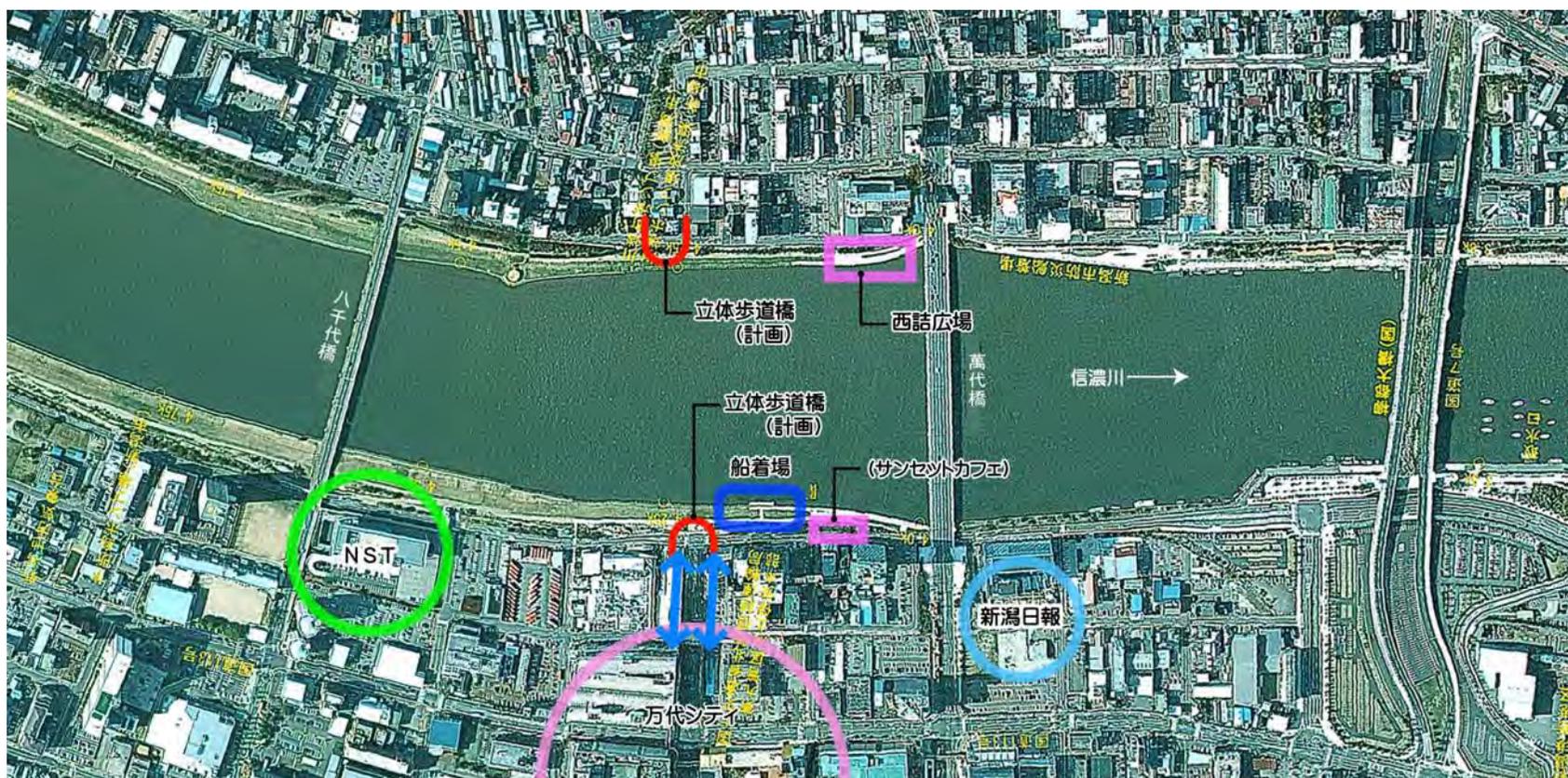


整備イメージ図

2) 整備済み区間の改良デザイン検討

① 萬代橋～八千代橋(両岸)

- 背後地には新潟市の中心市街地が形成されており、現在でもイベントで多くの集客があるなど、商業利用のポテンシャルが最も見込める区間。
- 右岸には防災船着場(ウォーターシャトルの発着所)がある。
- 新潟市の都市再生整備計画では、「回遊性の高い歩行空間」「新たな賑わい空間」を目標としている。
- 左岸ホテルオークラ前には、ホテルからやすらぎ堤に直接アクセスできる連絡通路の整備(西詰広場)が整備予定。



2) 整備済み区間の改良デザイン検討

① 萬代橋～八千代橋(両岸)



芝生法面・緑地



立体遊歩道検討箇所付近



防災船着場(ウォーターシャトル発着場)

2) 整備済み区間の改良デザイン検討

② りゅーとぴあ前（昭和大橋上流左岸）

- 背後地はりゅーとぴあ、県民会館、新潟市体育館など新潟市の文化、スポーツ拠点が立地し、集客の多いイベントが開催されている。
- 背後地からは、2箇所の立体歩道橋でやすらぎ堤に直接アクセスできる。
- やすらぎ堤上に芝生保護マットが敷設され、水際は階段護岸タイプで整備。
- やすらぎ堤緑地部には、桜並木、トイレ、四阿等が整備。



2) 整備済み区間の改良デザイン検討

②リューとぴあ前（昭和大橋上流左岸）



芝生広場(高水敷)



階段(イベント時のステージ利用)



トイレ(既設)



階段護岸(親水空間)

3) 設備等の整備に係る基本方針の検討

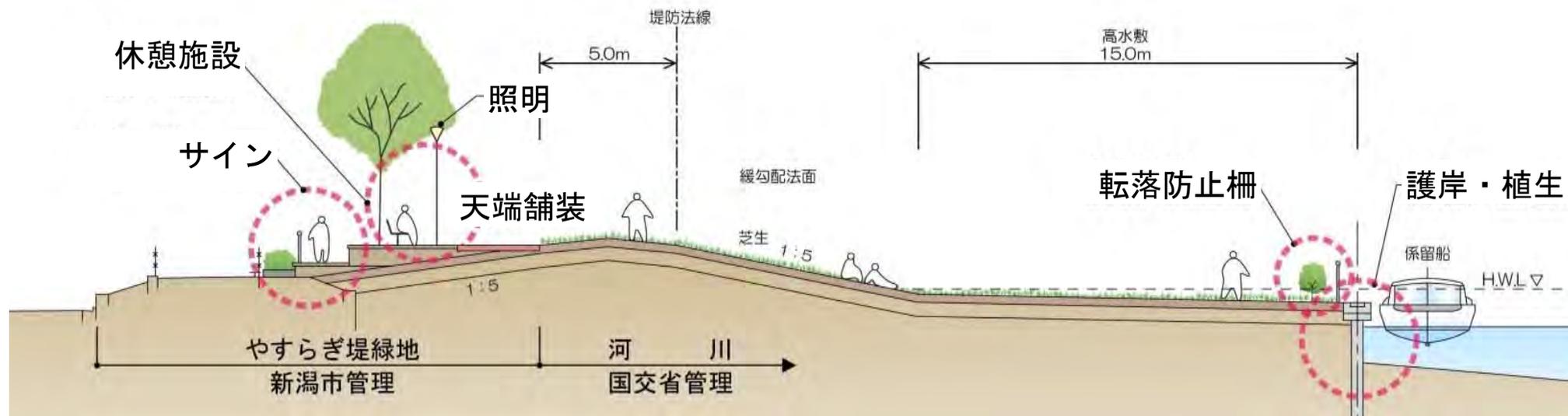
①設備等の整備に係る基本方針の内容（案）

設備類の新設・更新のデザインに当たって参考とする基本方針を作成してはどうか。

護岸・植生等	護岸や植生等のタイプごとに、適用の考え方を整理
設備類 (転落防止柵・休憩施設・照明等)	設備類のデザイン検討に当たって参考にできる、推奨の素材・色調・様式等のルールを作成
サイン(看板)	サインの統一デザインの作成

新設・更新時及び許可工作物の許可条件として活用

機能的で統一感のある水辺、やすらぎ堤ブランドを感じる水辺づくり



3)設備等の整備に係る基本方針の検討

②タイプ別適用の考え方(案) 1)護岸

形状	A. 控え杭式矢板護岸タイプ	B. コンクリートブロック基礎矢板形式タイプ	C. コンクリートブロック形式タイプ	D. 入江タイプ(コンクリートブロック形式)
事例写真				
現況・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・現状で劣化は認められていない。 ・直立護岸であるため転落防止柵か生け垣が必要であり、水際へのアクセス性は悪い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一部区間で沈下が見られる。ブロックの目地から植生が生えているが、親水利用に際して影響は認められない。 ・カヌー等の利用が可能。 ・護岸がすべり易い場合があること、航行する舟の波があることから、水際で幼児を遊ばせるには、不十分。 ・水際に柵が不要であるため高水敷からの景観は良好。 		<ul style="list-style-type: none"> ・一部区間は、土砂が堆積し植生繁茂。 ・ゴミの漂着が多く維持管理に手間がかかる。 ・川側に石橋があり、水遊びをしても事故の危険性が相対的に小さい。
適用方針(案)	<ul style="list-style-type: none"> ・水際へのアクセス性の良い直立護岸タイプも検討。 	<ul style="list-style-type: none"> ・転落で大事故になる危険の少ない護岸、転落防止柵等の景観上の障害が無い護岸として、今後も活用。 ・親水をメインにする設備とするには、更なる改良が必要。 		<ul style="list-style-type: none"> ・抽水植生を配置する目的で改良の可能性がある。 ・改良に当たっては管理軽減が課題。

3)設備等の整備に係る基本方針の検討

②タイプ別適用の考え方(案) 2)水際植生

形状	木枠タイプ	木板タイプ	入江ヨシ原	ヨシ原等の自然地
事例写真				
現況 ・ 課題	<ul style="list-style-type: none"> マコモは、流水・波等の外力に弱く、護岸前面に設置するには、少なくとも防波設備が必要。それでも、バックウォーター一部でなければ、一部は洪水等により流失。 防波設備で区切った場合には、水生生物の利用の点では、価値が落ちる。 		<ul style="list-style-type: none"> 入江部での植生は比較的良好に生育している。 景観上の効果は発揮している。 ゴミや土砂が溜まりやすく管理が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 一部区間で護岸前面にみられ、自然な水際を形成し良好なハビタットを形成。 高水敷から水面への視界は遮られる。
適用方針 (案)	<ul style="list-style-type: none"> 持続的な繁茂が困難であることから、現状形式については今後適用しない。 マコモは生態系としての価値は高いことから、入江タイプなどでの生育を目指して形式を検討する。 		<ul style="list-style-type: none"> 良好な景観を求める箇所では、適している。 生態系保全の機能を重視する区間では改良が必要。 管理方法要検討。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然環境を重要視する区間で適用。 根が混入した土砂の敷設など、施工方法を検討し、ヨシ群落のミチゲーションが必要な区間に設置。

3)設備等の整備に係る基本方針の検討

②タイプ別適用の考え方(案) 3)転落防止柵・生け垣

形状	鋼製防護柵(横棧)	鋼製防護柵(縦棧)	木柵+生垣
事例写真			
現況 ・ 課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生け垣に比べて、視界の遮蔽は少ない。 ・ 基本的に茶系で統一されている。 ・ 縦棧、横棧ともにシンプルな形態である。 ・ 幼児等の侵入を防ぐため、連続させる必要があり、防柵設置区間から水面利用を行うことは困難。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然の柔らかな印象があるが、一部で劣化(生育環境の悪化)が見られる。 ・ 景観的観点からは、堤防から水際が見えなくなる副作用がある。
適用方針 (案)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水際利用意匠、素材感の統一が必要。 ・ 幼児のよじ登り防止のため、今後の整備は縦棧を基本とする。 ・ 一部区間では、水面との一体利用ができるよう、可動式・取り外し式の防護柵についても検討。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 船舶係留する施設など、水際の視界を遮りたい直立護岸部に適用。

3)設備等の整備に係る基本方針の検討

②タイプ別適用の考え方(案) 4)天端舗装

舗装	自然石平板舗装	ゴムチップ舗装 (ベージュ)	ゴムチップ舗装 (黄土色)
事例写真	 A photograph showing a wide, paved walkway made of light-colored natural stone slabs. The walkway runs alongside a body of water, with modern buildings and a bridge visible in the background.	 A photograph showing a paved walkway made of beige rubber chips. The walkway is situated in a park-like area with trees and a body of water in the background.	 A photograph showing a paved walkway made of yellowish-brown rubber chips. The walkway is bordered by a fence and a large willow tree, with a body of water and buildings in the background.
現況	<p>・萬代橋～八千代橋区間は、萬代橋や区間の拠点性に配慮し、グレー系の自然石舗装(平板、小舗石)を基調とする。</p>	<p>・左記以外の区間は、周りの河川景観と合いやすいベージュ系舗装を基本とする。 (天端は、既整備と同様にゴムチップ舗装とする。)</p>	

3)設備等の整備に係る基本方針の検討

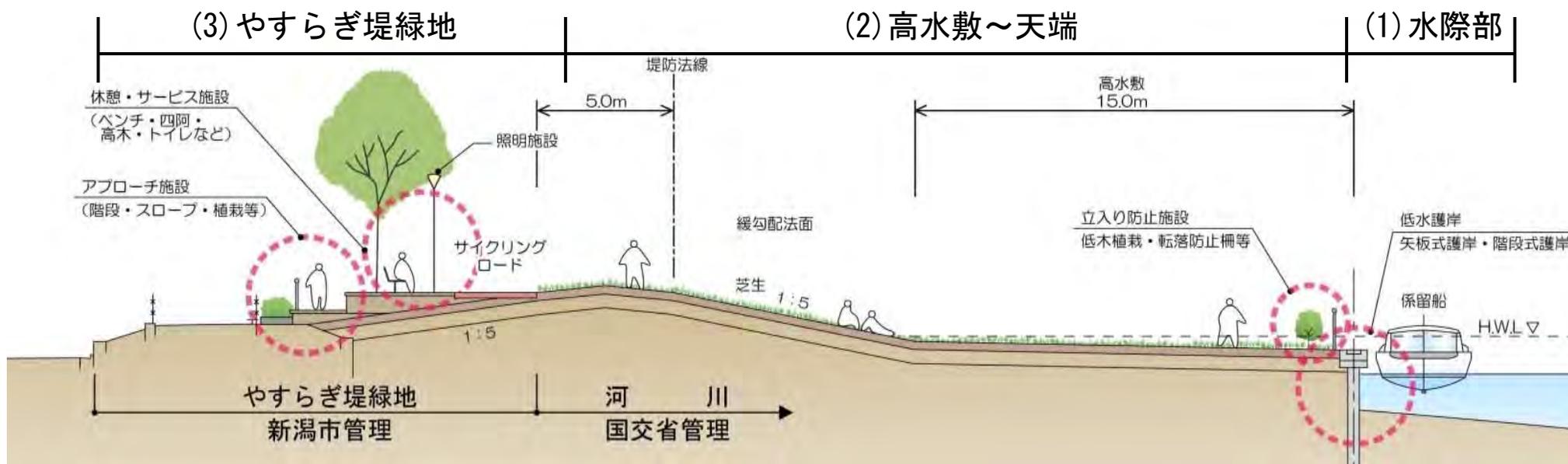
③設備の色調・素材・意匠等の推奨

全ての設備類のデザインを決定することは困難であるが、設備類のデザイン検討に当たって参考にできる、推奨の素材・色調・様式等のルールを作成出来ないか。

○主な対象

場所	構成要素	項目
(1) 水際部	護岸・植生	パターン
		素材・種
	転落防止柵	形 素材・色
(2) 高水敷～天端	係留施設 防災船着場	形 素材・色
		天端舗装

場所	構成要素	項目
(3) やすらぎ堤緑地	休憩施設	形 素材・色
		サイン
	植栽	樹種



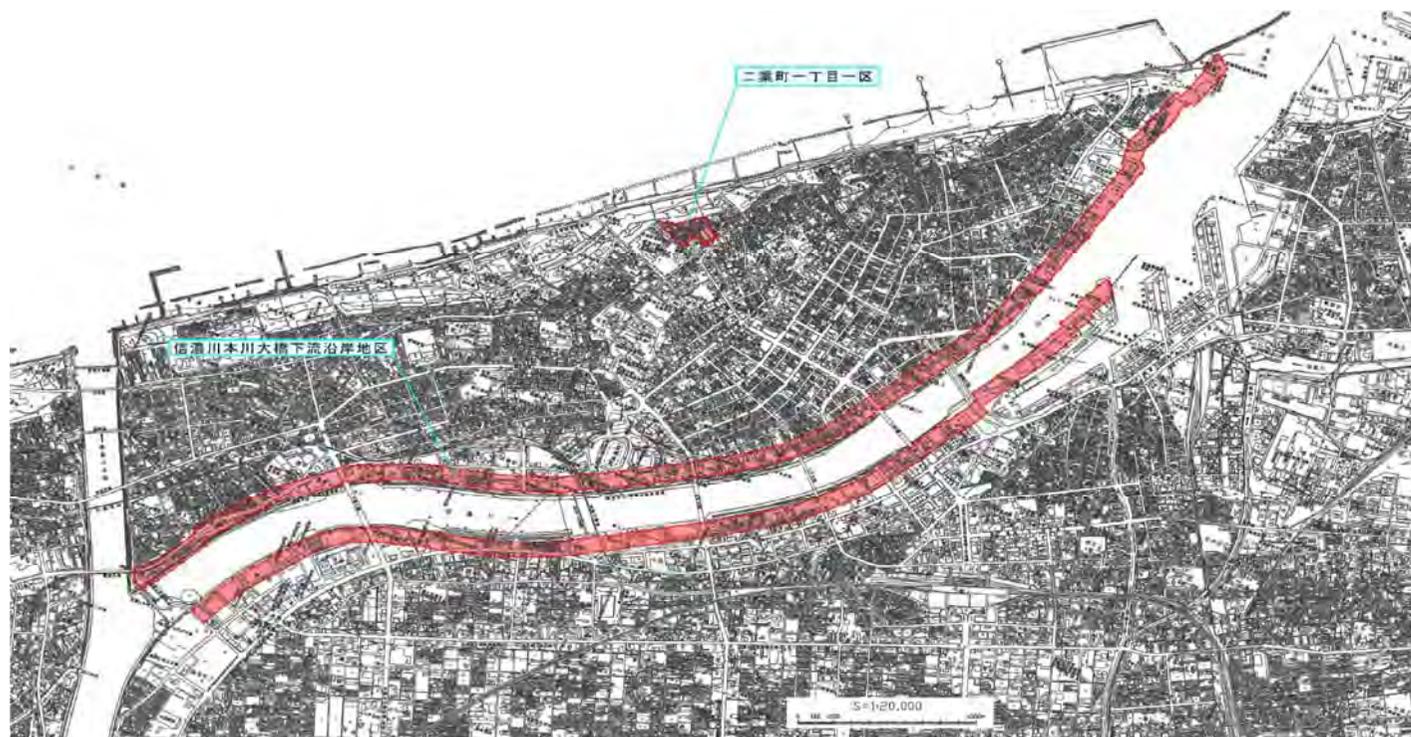
3)設備等の整備に係る基本方針の検討

③設備の色調・素材・意匠等

参考)新潟市景観計画<H19.2>

- 景観計画では、一定規模の建築物、工作物の届出義務、及び配置、意匠、高さ等の景観形成基準(行為制限)が義務付け。
- やすらぎ堤沿川の区域は、地域の特性に応じた景観形成を進める必要がある「特別区域」に指定。

信濃川本川大橋下流沿岸地区：本市を代表する景観の一つとして、将来にわたって市民共有の資産として、景観形成を図るべき地区(約133.7ha)



新潟市景観計画
特別区域の範囲

3)設備等の整備に係る基本方針の検討

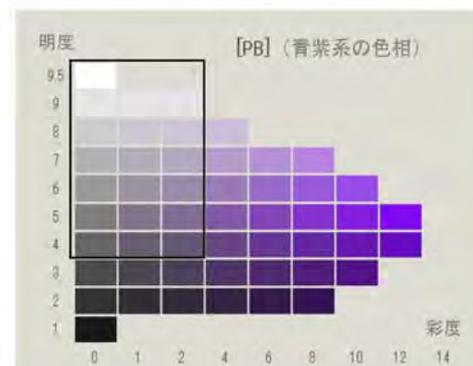
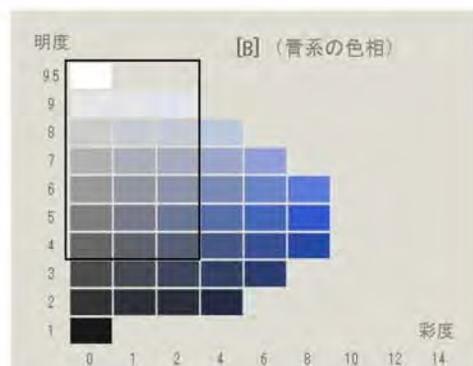
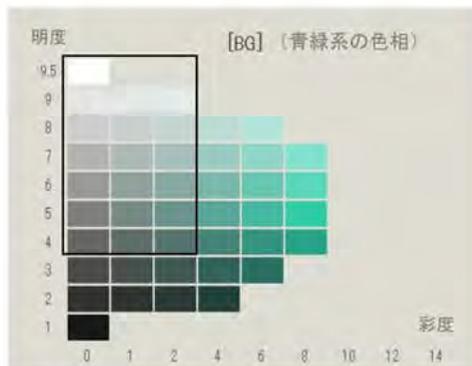
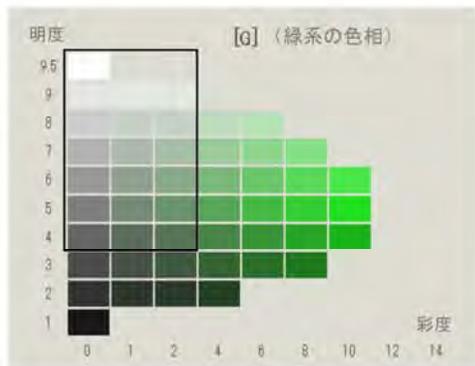
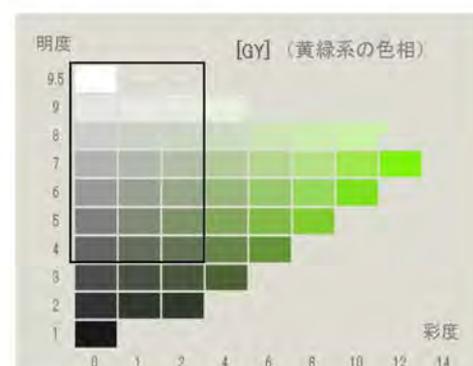
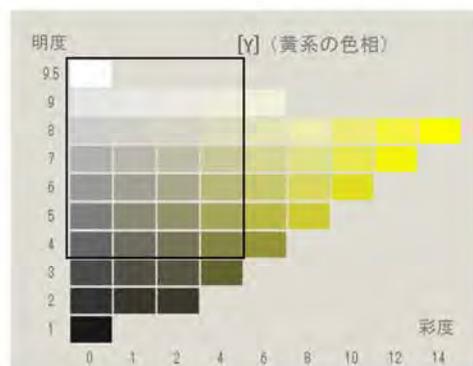
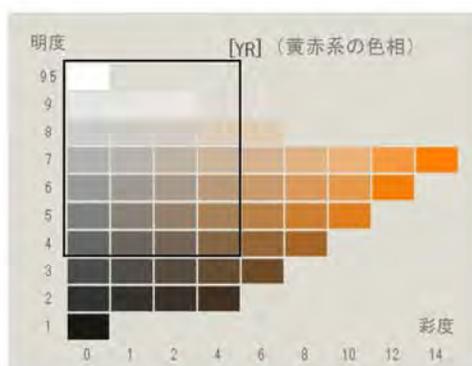
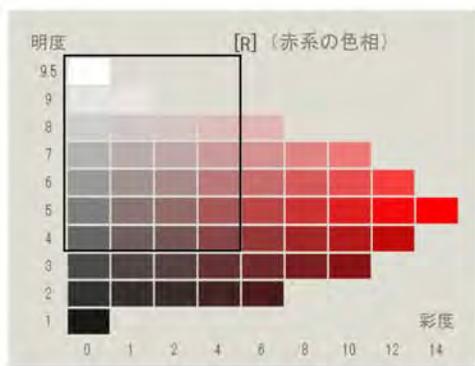
③設備の色調・素材・意匠等

○参考)新潟市景観計画<H19.2>一般区域における建築物の基調色について(粹)

景観形成基準

周辺の環境や建築物との調和を図り、圧迫感や突出感を与えないようにするため、外観の基調色は、マンセル値によるものとし、彩度6以下とすること。

また、明度4以上となるよう努めること。さらに、色相がR, YR, Yの場合は彩度4以下、色相がGY, G, BG, B, PB, P, RPの場合は彩度2以下となるよう努めること。



※下の代表的な各色相見本内の黒枠で囲まれた部分は、努めていただきたい色彩の範囲を例示したものです。

3)設備等の整備に係る基本方針の検討

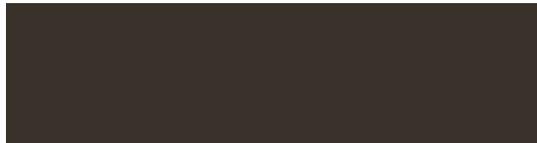
③設備の色調・素材・意匠等

○参考)景観に配慮した防護柵の整備ガイドライン(平成15年10月、国土交通省道路局)

(色彩の考え方(案))

○ 転落防止柵、照明柱、サイン本体の色彩は極力統一することとし、やすらぎ堤に相応しいベース色を、「景観に配慮した防護柵の整備ガイドライン」などを参考に設定する。

■色彩例

色の名称	標準マンセル値 ※	イメージ
ダークブラウン 〔こげ茶〕	10Y R 2.0/1.0 程度	
グレーベージュ 〔薄灰茶色〕	10Y R 6.0/1.0 程度	
ダークグレー 〔濃灰色〕	10Y R 3.0/0.2 程度	
オフホワイト 〔乳白色〕	10Y R 8.5/0.5 程度	

3)設備等の整備に係る基本方針の検討

③設備の色調・素材・意匠等

推奨するデザイン基調の設定

サイン

- デザイン： 周辺環境に調和するタイプを基本として、デザインの統一を図る。
誰にとってもわかりやすく利用しやすいユニバーサルデザインを導入する。
- 配置： 情報の連続性に配慮したサイン配置とする。
- 情報： 平常時・災害時に適切な情報を提供する。
(平常時：地域案内・情報、災害学習 災害時：避難場所・経路等の情報)
※ 他媒体(パンフレットや観光マップ、WEB等)と連携

■サインタイプ(デザイン基調)の例



シンプルタイプ



歴史タイプ



装飾タイプ



ナチュラルタイプ

3)設備等の整備に係る基本方針の検討

③設備の色調・素材・意匠等

公園設備のデザインの考え方(案)

休憩施設(ベンチ・四阿)

(配置)

○利用しやすいようベンチや四阿の足元を舗装し、車イス利用者が滞留できるスペースを確保する。

(デザイン)

○ベンチや四阿は、自然石や自然木などの自然性の高い素材を使用し、シンプルな形状を心がける。

○萬代橋～八千代橋区間は、場所性に配慮したデザインとする。

例:自然石舗装箇所 ⇒ 本体:自然石 座面:自然木(座面の厚いもの)

照 明

○支柱の色は、柵で採用したものと同様の色彩を採用する。

3)設備等の整備に係る基本方針の検討

④看板類のデザイン統一

他事例を参考にして、サイン類のデザインに統一ルールを設定できないか。

参考)川標(かわしるべ)の実践例:九州地方整備局

誰でも一目で分かりやすい川の標識にするため、平成21年5月に「川の標識の管理と整備に関するガイドライン」を策定。九州管内の全ての水系において、既存標識の点検を実施し、順次新しい標識に改善している。



注意喚起標識の設置例
(事例:大分川水系七瀬川)

ポイントはこちら! 川ごと、地域ごとにバラバラだった「川の標識(看板)」に共通の色や絵柄を使うことで、もっとわかりやすい標識になり、川の安全利用に役立ちます。

禁止行為を示す標識		注意喚起を示す標識	
改善イメージ	改善イメージ	改善イメージ	改善イメージ
ここに入ってはいけません	廃棄物を捨ててはいけません	サイレンが鳴ったら川からあがろう	サイレンが鳴ったら川からあがろう
標識に書き込まれるおそれがあります。	不法投棄が、近隣もしくは本施設により散らかります。	サイレンが鳴った場合は速やかに川からあがります。	サイレンが鳴った場合は速やかに川からあがります。

・禁止は赤色、注意喚起は黄色を使って色で分けます。
 ・一目でわかるように、統一した図柄を入れます。
 ・わかりやすい言葉で伝えます。
 ・周りの景観を乱さないように、材料やデザインに配慮します。

※九州大学大学院芸術工学研究院の協力を得てデザイン等を検討しています。